

茨城大学教育学部附属中学校 一年

## ふれ合うことの大切さ

なか 垣 美 咲

私の住む地域では年に三回、地域清掃があります。私は三才の頃から参加する事が楽しみでした。なぜなら掃除の後、子供たちにお菓子をくれるからです。それが楽しみで、小さい頃は張り切って掃除に行っていました。しかし、小学生になってから楽しみはそれだけではなくりました。参加しているのは毎日会う近所の人たちだけでなく、顔の知らない少し離れた所に住んでいる人たちもいて、何だかそれが新鮮でワクワクしました。子供たちは、お互い少し緊張して初めは話もしませんが、草をぬいたり、落ち葉を集めたりしていると、「綺麗になったね」「次はあつちをしようよ」と自然と話をして好きなテレビや本の話をしたり、草を使っておままごとをしたり、とても楽しい時

間でした。そんな様子を見ていた見知らぬおばあさんが、「この花はね、シロツメクサと言って白い花がとっても可愛いよ。これでブレスレットを作ってあげるわね。」と言ひ白い花を器用に繋げてあつという間に可愛らしいブレスレットを作ってくれました。おばあさんの名前は薫かおるさんと言うのだと後々知りました。沢山話している中で私が梅干しが好きというとぱりぱりおいしい梅のつけ方を母に伝授してくれたり、私にとって薫さんは、何でも知っている魔法使いのようでした。

普段は薫さんに出会うことは少ないですが地域清掃で会える事が本当に楽しみでした。薫さんには私より二歳年上の孫がいるのですが、なかなか会えないので美咲ちゃん

が孫みたいで、話をすると元気が出てくると言われると少しはすかしい気持ちがありましたがとても嬉しかったです。

しかし、三年位前から薫さんを見かけなくなりました。初めは都合が悪くてこれなかったのだろうと思っていましたが、その後も何回過ぎてても会うことが出来ず、淋しい気持ちでいっぱいでした。具合を悪くしていかすごく心配になりました。

ある日公園で遊んでいると「美咲ちゃん！」と後ろから声が出て振り返ると杖をついた薫さんがいました。久しぶりで嬉しさと気はずかしさで何を話そうか少し考えてしまいました。すぐに昔のように戻りました。薫さんは足の手術をして、膝を曲げるのが辛く地域清掃に行けなかったとのことでした。私が薫さんを想うように薫さんも私を心配してくれていて会いたいと思っていてくれたと聞き何とも言えない温かい思いが私の体の中に湧いてきました。薫さんはこうおっしゃいました。

「年をとると、美咲ちゃん位の年代の子と話す機会が減るの。でもね、少し話すだけで一日分の元気とパワーをも

らえるのよ。何か子供たちに伝えることが出来ると、私が長く生きてきた事に意味があったと思えるの。あなたはきつと気付いてないけど、子供からもらうパワーはどの薬よりも元気になるの。だから何だか次の地域清掃は行けそうに思えてきたわ。リハビリを頑張るパワーが出てきたよ。」その言葉で私も考えさせられました。元気をもらっていたのは私も同じ。薫さんから、カマの使い方、道端に生えている草花にも名前があり、生きる生命力、そして私にも人を元気にできる力があるということを知りました。地域清掃はただ町を綺麗にするためだけに行うのではなく、その地域に住む人々が、その場で出会い、交流し、互いに尊重して生活できるように促す場でもあったと感じました。

薫さんに出会えて私は少し変わったと思います。お年寄りに寄り添える人になりたい、地域を明るくできる仕事をしたいと考えるようになりました。自分と意見、年齢、性別、人種の違う人。世の中には自分と違う人ばかりです。多くの人とふれ合って自分が磨きあげられるのだと感じています。薫さんと出会ってそう思ったことが何より私の宝です。